

# ひと輝



～作家・安田 依央～

【本名】安田 祥子  
(大阪司法書士会会員)  
1966年1月12日生まれ  
第23回(2010年)  
小説すばる新人賞受賞  
「たぶらかし」

平成22年の小説すばる新人賞(集英社主催)に、大阪市に事務所を置く司法書士安田祥子氏の「たぶらかし」(ペンネーム 安田依央)が選ばれた。選考委員の北方謙三氏は作家の資質である持続力を巧みに見せた作者であると評し、また五木寛之氏も反響が楽しみと評している(小説すばる新人賞選評より)。

安田祥子氏は、大阪府堺市の出身。幼少期から読書に耽り、既にこの頃から小説のようなものを書き始めていた。成長するにつれ、フランス文学等にも触れ、大きな影響を受けていく。そして在学していた関西大学法学部では音楽活動に専念していた。その後、司法書士試験に合格し、平成17年に司法書士登録した。

小説すばる新人賞に投稿を始めたのは平成16年。そのときに3次選考まで残り、その後は最終選考まで残ることも度々であったが、ここ数年は落選が続き、もうあきらめようかと断念しかかっていた。そのとき、出版社や周囲の方々から励ましを受け、再び執筆活動を再開。平成22年に投稿した作品は以前に応募した作品に司法書士の実務経験を通して感じた人の機微というものをにじませたものに仕上げたという。それが内容に深みを増し、今回の受賞に繋がったのであろう。

今後は、司法書士と執筆の両立が課題となるが、執筆に費やすエネルギーもさることながら時間の確保も大変で、毎朝4時からの2時間が執筆活動の時間に充てられているとのこと。さて、いま作品として考えているのは、主人公が司法書士という設定。人生という舞台上で司法書士は何を演じていくのか?、今後の活動に目が離せない。(松本)